

受講番号 19047 学校名 清水高等学校 氏名 有澤 拓也

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 26 名
科目名 英語Ⅱ 単位数(授業時数) 5 時間 使用教科書名 Tomorrow English Course II

クラスの様子・特徴

全体的におとなしくて真面目な生徒が多く、授業中騒がしくなったりすることはない。ところがこのおとなしくて真面目な性格のためか、人前での発表や表現活動だけでなく単純なリピートにも積極的に取り組めない生徒が多い。

問題の確定

授業でやった範囲でも音読をさせると一語一語でしか読めない。クラスの雰囲気作りや音読指導の方法の工夫が必要である。

予備調査

A 授業の観察

ペア活動に積極的に取り組む姿勢が見られた。手を挙げて発言したり発表したりする場面はなかったけれども、生徒同士が教え合いながら活動に取り組んでいた。教員が前で説明している間は静かに説明を聞いている。

B 生徒による授業評価

①「わかりやすいかどうか」②「これからどんな授業にしたいか」という簡単なアンケートを6月に行った。①についてはほぼ全員が「わかる」と答えた。②については「文法や読解問題など、大学進学に向けての指導をしてほしい」という意見があった。

C 学力データ

6月に実施した代ゼミ全国模試でのクラス平均偏差値は 49.6 (最高57.0 最低41.7)であった。学力差はあるものの中学程度の英語は身につけていると考えられる。

リサーチ・クエスチョン

積極的に音読に取り組ませるにはどのように指導すればよいか

仮説・実践・検証

仮説1

音読試験を実施し、評価すれば音読活動に対するモチベーションが高まるだろう。

実践1

1学期には音読試験、2学期にはシャドーイングの試験を行った。授業では和訳先渡しで、音読活動に多くの時間をかけるようにし、2学期以降はシャドーイングをメインに、教科書の英文を使って何度も繰り返し行ってきた。また生徒には年度当初に教科書の音声CDを配布し、授業だけでなく家庭でも練習をするよう促した。

検証1

アンケートによると、シャドーイングは「最初とてもじゃないけどできないと思っていたができるようになって嬉しい」とか「英語が聞きやすくなっている気がする」などの意見があり、生徒たちは難しさと同時に楽しさも見だしているようである。授業中の音読の声もだいに大きくなってきている。家庭学習では音声CDを聞いて練習したり、自分の声を録音したりする生徒もいた。

仮説2

ペア活動やグループワークを多く取り入れれば、和やかな雰囲気を作れるだろう。

実践2

クラス全体でのシャドーイング練習の後、ペアを作らせる。一人がシャドーイングをし、パートナーが間違えた箇所をチェックするという活動を行った。活動後は教員が生徒を数名ピックアップし、どこが間違えた箇所かを聞き、クラス全体でその箇所をもう一度練習した。

検証2

もともとペアワークには積極的に取り組む生徒たちなので、発表する生徒はパートナーに声が届くように大きな声で発表し、チェックする生徒は聞き漏らすまいと傾聴していた。ペア活動後のクラス全体での練習ではより大きな声で取り組むことができ、英語を学ぶいい雰囲気ができたと思う。このことは、これ以前にクラス内での生徒同士の人間関係がすでにできていたことが大きく影響している。

仮説3

短い英文でレシテーションやスピーチなどの発表活動を行えば、生徒に達成感をもたせ、自信をつけさせることができるだろう。

実践3

授業のはじめに毎回数名の生徒にシャドーイングの発表を行わせた。発表する範囲は前日に授業で練習したところでやった。発表の前にクラス全体で一度練習をしてから、教員が発表者を指名して実施した。

検証3

達成感を持たせるために行っていたのであったが、アンケートによるとやめにしてほしいという意見が多かった。クラス全体の前での発表は生徒にとってあまりにプレッシャーが強すぎたことや、発表後のフィードバックが不十分だったことが理由ではないかと思う。

研究の成果

年度当初、生徒にレポートを促しても誰もレポートせず、教員の声だけが教室にこだまっていたことを思い出す。このARで音読指導に取り組んで、生徒たちの音読に対する考えは変わったと思う。今では全員が声を出して音読活動に取り組むようになった。こちらが指示した訳でもないのに片手でリズムを取りながらシャドーイングしたり、他の生徒の発表(仮説3)にもロバクでシャドーイングするなど、英語学習を純粋に楽しんでいるようである。

今後の授業改善の課題

授業中になるだけ多くの時間を音読練習の時間に使ってきたのだが、練習方法がマンネリ化してきている。繰り返し行って効果がでる音読練習なので、生徒が飽きずに取り組めるような工夫が必要だと思う。また、文法事項については十分な時間をかけて指導していないため、不安を感じている生徒もいる。今後解決していくべき課題である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0880-82-1236

電子メール

#REF!